

～輝きの子育て～

一芸に秀でる者は多芸に通ず ～ 徹底するものをさがす ～

「一芸に秀でる者は、多芸に通ず」という言葉は、一つの道を究めた人はほかの多くの事柄も身につけることがたやすい、という意味です。

子どもに、すべての学科の点数を上げろと言うとどの学科も中途半端に終わってしまうことが多い。あれも、これもしなくてよい、これならやれるという学科を選んで徹底的にやれ、クラスで一番になる程、頑張れといって勉強させ、あるところまで行くと、ほかの学科の成績も上がり始める。

私事です、高校時代、数学がいつもゼロ点に近い点しかとれなかった。これを克服するため、夏休み約2ヵ月間、数学だけを徹底的に勉強した。2学期からは、数学はトップクラスに躍り出て、同級生をビックリさせたことがある。その後不思議なことに、国語の成績も急上昇し、他の学科も少しずつ上昇し始め、希望の進学を果たしたことを思い出します。科学的には「脳の汎化作用」というもので脳の一つの分野を伸ばすと、他の分野も伸びてくるということのようです。

日本の「フジヤマのトビウオ」と言われた、故・古橋 廣之進氏^⑨の講演録で彼は次のように言っています。

「私の時代と違って、今はいろいろな楽しみがいっぱいある。しかし、一人の人間がいろいろやるわけではない。一時にやれるのは、世の中がいくら変わっても一つしかない。ながら族といわれ、ラジオを聞きながら勉強する、テレビを見ながら本を読む。じゃあ、ラジオを十分楽しみ、勉強も十分出来たか、テレビを見ながら読書の醍醐味も十分に味わったかということ、そうじゃない。どちらも中途半端でしょう。喜びや感動も薄い。それでは、生きている充実感が薄くなるのは当然です。いろいろな楽しみが増えたと言っても、それは、自分のやることの選択の幅が広がったということだけです。一人の人間が集中できるのは、そんなに多くない。むしろ、たった一つだと言った方が正解です。何でも良い。自分が、これだと思えるものを選びとったら、その目標に向かって、徹底的に集中していく。充実感や感動を自分のものにするには、それ以外にないということです。大きな目標を踏まえて、一つのことに集中していく。それが結果として、大きな差になるということです。」ここで、問題となるのは、徹底して打ち込めるものをどうしたら見つけることが出来るかということです。

私は「三日坊主」を勧めます。三日坊主とは、飽きやすく、何をやっても長続きしない人のことです。三日坊主という言葉は、ネガティブな言葉ですが、実はアクティブな言葉だと思います。

いろいろなことを、自分でやってみることで「自分に合う、合わない」ということが感覚的にわかります。合わないことをダラダラ続けては時間の無駄です。ただ、高い金額を出したり、親にねだってやらせて貰ったりした場合、大変な抵抗感がありますが、人生における投資と考えるしかありません。話のネタとすれば良いのです。極端な話、一年間三日坊主を続ければ100以上のいろいろな経験が出来ます。何もしないより、よっぽど良い事だと思います。三日坊主を繰り返し、その結果、徹底的にやることが見つければ幸せなことです。それでも、我々凡人は、一生見つからずに終わる人も少なくありません。何かを探し求めて生きることが前向きの人生でしょう。

片野 英司

⑨ 古橋 廣之進（1928年～2009年）水泳選手

第二次世界大戦で負けた日本で、次々に世界新記録を出し、打ちひしがれた日本人の希望の星（ヒーロー）となった人。戦時中の学徒動員で工場作業中、左手の中指の先を旋盤で失う。水泳ではおおきなハンディーをもっていた。1949年全米選手権で400m、800m、1500m自由形で世界新記録樹立。フジヤマのトビウオ(The Flying Fish of Fujiyama)と言われた。日本水泳代表の愛称はトビウオ・ジャパンです。